令和6年度 奈良県コミュニティ・スクール研修会 実施報告

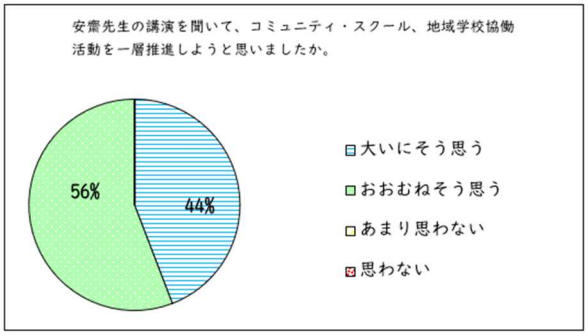
《日　時》　令和６年１１月２６日（火）
《場　所》　県立教育研究所　大講座室
《参加者》　各市町村立学校園（組合立含む）の管理職、市町村教育委員会担当者

参加者合計　１２０名

《内　容》
◆講　　演
「コミュニティ・スクールの導入から運営まで
～対話と信頼に基づく学校経営の実現を目指して～」
ふくしま学校と地域の未来研究所　代表
文部科学省ＣＳマイスター　安齋　宏之

【講演の概要】

〇学校長の夢（目標）の実現のためには、学校長をはじめとする教職員だけが頑張るのではなく、保護者や地域住民の当事者意識を高め、多くの人を巻き込むことが必要である。そのために、コミュニティ・スクールを活用し、「対話と信頼に基づく学校経営」を目指すのである。
〇「地域との連携ができているのに、コミュニティ・スクールは本当に必要ですか。」という質問をよく耳にする。地域の人と行う防災訓練等のイベント、読み聞かせやミシンの補助等の地域の方の学校支援、地域清掃活動の児童・生徒の参加等は「地域学校協働活動」であり、「コミュニティ・スクール」ではない。
〇コミュニティ・スクールとは、「学校の教育目標達成のために、保護者・地域住民が学校経営に参画し、教育の最適化を図るために協議する仕組み、またはその仕組みが導入された学校」のことである。
〇「対話と信頼に基づく学校経営」を行うために、共有できる価値ある目標の設定、保護者・地域住民の当事者意識の醸成、教職員の協働意識の高揚、合意形成や連携・協働の場の設置、学校評価の活用等を重点的に取り組むべきである。
〇学校・地域が課題を共有することで、共通の目標がつくられる。大切なことは、保護者・地域住民と一緒につくり、手間暇をかけ、どの世代でもわかる言葉でシンプルにつくることである。
〇学校の教育目標をみんなでつくると、学校が身近な存在となり、地域住民の当事者意識を高め、協育目標が地域学校協働活動の目標（協育目標）にもなる。そして、学校と地域が同じ夢（共生目標）を語ることにつながるのである。
〇保護者・地域住民等との熟議では、必ずしも「最適解」が見つかるわけではない。解決のための具体的な取組につなげるためには、参加者が歩み寄り、合意できる方策を見出すこと（納得解）が大切である。
〇熟議参加者が大切にしたい意識は、相手の話に関心をもち、共感しながら真摯に聴こうとする意識（傾聴意識）、課題の把握や解決方法の検討などを通して、参加者から学ぼうとする意識（学ぶ意識）、どのような課題も自分事として考え、どうしたら解決できるか、そのための自分の役割は何かを常に考える意識（当事者意識）である。
〇学校運営協議会委員の選出では、〇〇長（充て職）にこだわらない人選が大切である。学校長が、自ら人選することが困難な場合は、信頼できる地域住民の協力を得ると良い。定数に達しない場合は、無理に選出せず、教育目標達成に必要な人を徐々に増やしていくことも大切である。
〇コミュニティ・スクール（地域学校協働活動も含む）の機能が、子どものため、教職員のため、学校のためになるときは、積極的に使う。困ったら一人で悩まず、様々な人に相談してみる。これからは、学校長の「受援力（助けてもらう力）」も大切である。

《参加者の感想》

〇わかりやすく、かつ納得のいく内容の講演だった。同じようにはいかないが、少しでも学校が理想に近づいていけばいいなと思った。
〇講演を聞かせていただき、地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの違いについて理解することができた。また、熟議の大切さを学んだ。
〇先生の講演の中で、学校長の「受援力」の話があった。まさにその通りだと思った。
〇学校運営協議会委員に対し、当事者意識をもたせるためにどのようにアプローチすればよいかを、経験を交えて話してくださり、よく分かった。